

テーマ「感染対策を踏まえた働き方改革」

視点１ 行政との連携や働きかけ

- ・ 守谷型カリキュラムマネジメント（週３日の５時間授業日の実現）
- ・ 児童生徒及び教師の双方における日常の負担の平準化
- ・ スクールスタッフの増員
- ・ 学習での ICT のさらなる活用，授業改善による学力向上
- ・ オンラインを活用した学校と家庭のデジタル連携
- ・ 児童と向き合う時間を確保するための支援体制
- ・ 新型コロナに対応する新しい生活様式の確立
- ・ オンライン授業に係わる環境整備

視点２ 自校での取組

- ・ 各校ポータルサイトの設置を行い，児童の出欠席をシステムでの実施
- ・ ポータルサイトによる各種連絡体制の確立（学年便りや週案内容を精選しポータルサイトへ掲載）ペーパーレス化
- ・ オンラインの活用による各種アンケートの実施（いじめ，学校評価等）
- ・ 学校行事の平日半日開催及び内容の精選による学校行事の簡素化
- ・ 職員会議の縮減。学年主任会の機能を生かした会議の回数，時間の縮減）
- ・ 学校日誌、看護日誌、保健日誌等の帳簿のデジタル化
- ・ 学年主任会の機能を生かした会議の回数，時間の縮減
- ・ 職員室の開場の時刻設定（７：３０）昇降口の開場の設定（７：５０）
- ・ 清掃時間の変更（週５日から週２日）による時間の捻出
- ・ 複数顧問制（交換制）による部活動指導（週１日の事務日設定）
- ・ 専門的なスキルをもつ外部コーチや指導員等のボランティアの協力による負担軽減
- ・ 週、月、学年別の勤務時間の見える化（グラフ等）及び学年主任会での状況報告

【成果】

- ・ 授業準備時間の確保及び児童と向き合う時間の確保ができるようになった。
- ・ ペーパーレス化により，印刷、配付の時間が削減された。デジタル化により保護者への連絡漏れが無くなった。
- ・ 朝の登校や出勤時間を決めたことで時間に余裕ができた。
- ・ 清掃日を少なくしたことで，下校時刻を早めることができた。
- ・ 職員が優先順位をつけて，見通しを持っての仕事に取り組むことができるようになってきた。
- ・ オンラインを様々な調査に活用することで配付、回収、分析が簡素化され，業務効率が非常に高まった。
- ・ 部活動でのボランティアによる専門的な指導で教員の負担が減ってきている。
- ・ 会議では，協議事項と連絡事項を分け効率的に進めるための協力体制がとられ，合理的な会議運営ができた。

視点３ 次年度に取り組みたいテーマ「働き方改革につながる G I G A 構想と学びの保障」